

## 日本の今と未来を考え、

### 今こそ憲法を守り生かす国になることをめざしましょう

日本国憲法前文には、次のように規定しています。「われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。」

今、「国際社会」の現状は、「平和を維持し」ようとしているのでしょうか。様々な課題を「永遠に除去しようと努めて」いるのでしょうか。戦争を仕掛けているロシアや、イスラエル、新たな大統領が専制的な政策を行き始めたアメリカなど、本当に危険な世界になっています。

日本国内はどうでしょうか。軍事費をGDP比で2倍化しようとしている現状で、「平和を維持し」ようとしているのでしょうか。昨年の10月の総選挙で与党が過半数割れになりましたが、それまでの「アベ政治」を始めとする政治も含めて、民意が願う政治を本当に行ってきたでしょうか。福島や能登など、被災地に寄り添う政治が行われているのでしょうか。

残念ながら、今の世界と日本は、憲法の理想からは遠い状況です。

反対の声を無視する形で1966年に「建国記念の日」が制定されて59年が経ちました。紀元前660年に神武天皇が天皇に即位したと伝承されていることを理由にこの日が決められています。しかし、その時代は日本の最古の古文書と言われるものからできえ1000年以上も遡る時代です。明らかにこれは、科学的に事実とは確認・証明できないものです。にもかかわらず、「建国記念の日」は、それ以来「万世一系」といわれる天皇制とその統治を賛美する役割を果たすものとして使われています。そして、戦前の「紀元節」の復活や、明治維新以降の日本の「国を守った」戦争への道を賛美することにもつながっています。

一方的なイデオロギーで民衆を支配するという、かつての誤った歴史を繰り返さないことを願って、私たちは、毎年2月11日に「建国記念の日」に反対する集会を開き、歴史の教訓を学び継承する運動を行ってきました。今年も、小幡尚さん（高知大学教授）の研究成果から、戦争の実相と、民衆の苦しみを学ぶことが出来ました。

この学びを生かし、日本にとって進むべき道はどのような方向なのか、今一度立ち止まって考えましょう。そして、軍事費を削って命と暮らしを守る政治への転換を求め、また地球上のすべての国が「平和」の中で共存できるような世界への転換を求め、ともに目指していきましょう。

本日の集会に参加した私たちは、そのことを改めて決意します。

そして、県民のみなさんにも、ともに歩んでいくことを広く強く訴えます。

2025年2月11日

「建国記念の日」に反対し日本の今と未来を考える集い 参加者一同